

農薬の適正使用を徹底しましょう！！

他県のJA・農産物直売所にて残留農薬基準超過事案が相次いで発生しております。

農薬の不適正使用などにより残留基準を超過した場合、農産物の出荷停止・回収・圃場に残っている農産物の廃棄処分を求められるだけでなく、消費者からの産地への信頼を大きく損なうことになります。

農産物を生産・出荷している生産者の皆さまにおかれましては、農薬を適正に使用するよう十分にご注意ください。

農薬使用の基本は、『農薬ラベルの確認・使用方法を守る』『周辺への飛散防止対策をする』『農薬の管理、散布器具の整備を徹底』農薬を使用した際は、その都度生産履歴(防除日誌等)に正確に記帳しましょう。

水稻

ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)を厳寒期に防除しましょう。

ジャンボタニシは寒さに弱く、水田の土中・浅く潜り込んで越冬しますので、厳寒期に水田を耕運することで、貝を破碎・土中の貝を地表面に出し寒さにさらして、水田で越冬する貝を減らすことができます。

深耕による作土層の改善

土中の鉄分・ケイ酸分は、圃場の作土の下の方に沈殿しやすいので、冬の間には深耕等を行って、鉄分・ケイ酸分を作土の上の方に戻すと良いでしょう。しかし、一気に強い深耕を実行すると上層の地力の高い土を下層に送り込むことになるので、年2~3cm位ずつ進めていきましょう。

キャベツ

引き続き、菌核病の発生に注意しましょう。

薬剤散布は、結球初期から予防的に初発部位である株元に十分かかるように散布しましょう。

キャベツ『菌核病』に登録のある殺菌剤(抜粋)

農薬名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アフェットフロアブル	2000倍	前日	3回
パレード20フロアブル	2000~4000倍	前日	3回
アミスター20フロアブル	2000倍	7日前	4回
ベンレート水和剤	2000倍	7日前	6回
ロブラール水和剤	1000倍	7日前	4回

令和4年(2022年) 1月出荷暦							令和4年(2022年) 2月出荷暦						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
						1 出荷済み			1 出荷済み	2	3	4	5 出荷済み
2 出荷済み	3 一休 出荷済み	4	5	6	7	8 出荷済み	6	7	8 出荷済み	9	10 出荷済み	11	12 出荷済み
9 出荷済み	10	11	12	13	14	15 出荷済み	13	14	15 出荷済み	16	17	18	19 出荷済み
16	17	18 出荷済み	19	20	21	22 出荷済み	20	21	22 出荷済み	23	24	25	26 出荷済み
23	24	25 出荷済み	26	27	28	29 出荷済み	27	28					
30	31												

たまねぎ

本圃施肥(10aあたり)

施肥種類	施肥時期	肥料銘柄	早生種	中生種	晩生種
追肥2回目	1月中下旬	苦土入り化成8-8-8	60kg		
	2月中旬	苦土入り化成8-8-8		100kg	
	2月下旬	苦土入り化成8-8-8			120kg

※追肥が遅れると、たまねぎの球は大きくなるが、しまりがなく腐りやすくなってしまいます。

また、遅い時期の追肥は、病害虫の発生を招いてしまいます。

<中耕除草>

土を柔らかくし、肥大促進・品質向上を目的に、追肥時に中耕除草をする。その際には、たまねぎの根はできるだけ切らないように軽く行いましょう。

中耕後に土壌処理除草剤を使用する場合は、土壌が乾燥していると効果が劣るので、適度に湿っている時に行いましょう。

<べと病の発生に注意しましょう。>

秋から冬(年内~1月中旬)に苗床または本圃でたまねぎに感染した後、1月下旬から3月に多湿で気温が10℃以下の時に越冬罹病株として発病します。その罹病株は発病から1~2ヶ月間、断続的に胞子を形成して伝染源となり、降雨が多く気温が温暖(15℃前後)の条件で多発し、3月下旬以降の発生につながります。

越冬罹病株を早期に発見し、抜き取りましょう。抜き取った株は、圃場に放置せず、圃場外へ持ち出しましょう。

たまねぎ『べと病』に登録のある殺菌剤(抜粋)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	効果
ランマンフロアブル	2000倍	7日前	4回	予防
ペンコゼブ水和剤	400~600倍	3日前	5回	
リドミルゴールド MZ	500~1000倍	7日前	3回	予防+治療
ザンプロ DM フロアブル	1500~2000倍	7日前	3回	
プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	7日前	3回	
ベトファイター顆粒水和剤	2000倍	7日前	3回	
ピシロックフロアブル	1000倍	前日	3回	

